

---

# 携帯電話？

ANOIA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

携帯電話？

### 【Zコード】

Z8047A

### 【作者名】

ANOIA

### 【あらすじ】

ミチタカとは、いわゆる恋人同士だった。ずっと前、私がもっと会いたいというと、ミチタカは私にそれを買ってくれた。これで寂しくないな、いつでも電話をかけてこいと私に携帯電話をくれた。

「ハレハレハル

ミチタカがくれたのは、小さな携帯電話だった。

「これで、いつでもお前と話せるな」

「うんー。」

私は、いつでもミチタカと話せるんだと思って、とっても嬉しかった。

その時から、その携帯電話は私の宝物だった。

## 携 帯 電 話

携

「え？ それってホント？」

ミチタカは楽しそうに笑う。

私もそれに釣られて笑う。

尻に敷いたクッションの位置を直しながら、電話を持ち直した。彼との電話は、私の中で心の支えだった。

「そんなことあるわけないじゃん

他愛ない会話。それが私にとってかけがいのないものだった。  
ミチタカは仕事の都合で地方に居るらしい。もう半年もあってい  
ない。

でも、三年前にくれた携帯電話があるので寂しくはない。

だから、私は週末になるとミチタカに電話する。

何時間も連続で、一切の休みも入れずに話し合つ。お互の近況  
とか、自分がどれだけ……相手を好きなのかを。  
その時間が、一番幸せだった。

## # 帶

「あの、機種変お願いします」

私は携帯電話を変えることにした。

声が聞こえ辛かったり、良く勝手に電源が落ちたりするのだ。  
友達も不便だし買えというし、仕事用にも使えない。

「どうりで」

「この、赤いやつで」

色々支障があつたので、私は泣く泣く携帯を変えることにした。  
可愛らしくてザインの、赤い携帯だった。

「お持ちの携帯は」「ひかり専利用でもありますので、お預かりしてよろしいですか？」

店員の人は機種変更が終わるとそんなことを聞いてきた。  
例え「」が携帯として話が出来なくて、これは私の宝物だ。

「いえ、彼からのプレゼントですから」

電

『つー……つー……つー……』

何度掛けても通じない。

何度掛けても、ミチタカは電話に出ない。

番号は変わっていないし、ミチタカも私の番号を登録している。

私は不審がって、彼の実家に電話を掛けた。

「こんなにちは。あの、コムロです。ミチタカさん、何かあったんですか？ 携帯、繋がらなくて」

「ああ、コムロちやん？」

おばちゃんの声。

「何言つてこるの？ ミチタカは半年前に亡くなつたじやない」

私は絶句した。

## 話

私は最愛の人が亡くなっていたと知つて、必死に電話を掛けた。新しい携帯電話ではなく、古い塗装の禿げた携帯電話。地のプラスチックを残らず剥ぎ取るように、必死に握つてその番号へかける。

これは、私とミチタカを唯一繋いでいた電話だ。  
だから、例えミチタカが天国に居たつて、私とミチタカを繋いでくれるのだ。

今までだつて、ミチタカと私を繋いでくれていた。  
だからきっとこれからも、そしていつまでも。  
この電話は私の心の支えになってくれるし、私を慰めてくれる。

「お願い、でてよ……」

彼の彼の声はない。  
聞こえてくるのは、

『つー…………つー…………』

「なあ、あの子。まだ籠つているのか?」

「ええ、週末はいつも籠つて居るのよね。まだ、立ち直れないのか  
しじ」

「いつその事、アレを取り上げてみたらどうだ？ 半年前に壊れて  
たんだろ？」

「駄目よ。癪癩を起して暴れて騒ぐだけよ。宝物だつて言つ  
ていたし」

「今までそうだったが、今はさりげないな。ビリでしかできないか  
な」

「道隆君が死んで、立ち直つたと思つたりこれがだもの」

「普段はなんともないのにな」

「でも、ずっと前から携帯電話を当して独り言つて居たわ

「なんだ？ 壊れてないんじゃないか？」

「いいえ、壊れてたわよ。耳を凝らして聞いても、携帯電話からは  
なにも聞こえなかつたわ」

私は聞く。

一人暗い部屋で。  
携帯電話を耳に当てる。

聞こえてくる。

『一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ』

了

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8047a/>

---

携帯電話？

2011年1月13日08時35分発行